



2009/12/20 平成21年度 天皇杯・皇后杯 全日本バレーボール選手権大会

# Match Result



試合番号 **607** **A 試合会場レポート**

■会場 東京体育館(東京都渋谷区) 試合開始: 12:35 試合時間 1:55  
 観客数 3,000 主審: 印藤 智一 副審: 北村 友香



デンソーエアリービーズ

■監督: 達川 実  
 ■コーチ: 辻 健志

■第1セット出場メンバー

34 スタエレンス	20 鈴木	2 矢野
8 井上	5 熊谷	4 細田

( )内は交代選手  
 ■リベロ: 16 片下 恭子

得点	セット時間	得点
25	1set(23')	18
12	2set(20')	25
10	3set(18')	25
25	4set(27')	21
12	5set(15')	15
<b>84</b>	<b>Total</b>	<b>104</b>
<b>2</b>	セット数	<b>3</b>



久光製薬スプリングス

■監督: 濱田 義弘  
 ■コーチ: 大東 雅史

■第1セット出場メンバー

11 オリヴェイ	4 先野	1 石井
22 石田	9 平井	3 原
7 (狩野)		

( )内は交代選手  
 ■リベロ: 10 佐野 優子

■Match Comment

昨日の熱戦を制し決勝の舞台へあがってきた久光製薬スプリングスとデンソーエアリービーズの両者。序盤、デンソーは昨日の勢いそのままに粘り強く拾い、熊谷の多彩なトスワークで全アタッカーが気持ちよくスパイクを決め得点をあげていく。それに対し久光製薬は狩野を投入するも流れは変わらずそのままデンソーが先取る。2セット目は逆に久光製薬のレシーブが安定し石田、オリヴェイラが連続得点をあげ25-12の大差で取り返す。3セット目も久光製薬の勢いは止まらず石井、平井のサービスエースから得点をあげていく。デンソーは黒羽、井上投入で流れを変えようとする。しかし久光製薬は平井の連続ブロックが出て勢いは止まらず25-10で連取する。後がないデンソーは矢野、井上が奮起しアタック、ブロックで得点を挙げると2連続で長いラリーを制し先行する。久光製薬はオリヴェイラで対抗するがファイナルセットにもつれ込む。5セット目、両者気迫溢れるプレーでゲームは一進一退で進む。終盤久光製薬は石井のサーブで連続得点をあげ、最後は平井のブロックで優勝を勝ち取った。

■Coach Comment: 達川 実(デンソーエアリービーズ)

サーブレシーブが安定せず相手のレフト攻撃に対するディフェンスが機能せず苦しい展開であった。しかし持ち前の粘りでフルセットまで戦い抜けたのは大変良かった。発展途上のチームなので今後につながる有意義な大会であったと思う。大会を通して素晴らしい応援ありがとうございました。本当に感謝しています。今後もチームが成長出来るように頑張りますので、応援の程宜しくお願いします。

■Coach Comment: 濱田 義弘(久光製薬スプリングス)

今大会高校生がベスト4に入って対戦した。今までの試合で一番苦しかった。チームが1セット目から主導権を握られて苦しい展開だったが選手達が良く頑張ってくれた。この優勝をリーグにつなげていきたい。本日は熱い声援ありがとうございました。

■作成者: 高澤 佳江

※ 本票の著作権は財団法人日本バレーボール協会に帰属します。